

〔様式1〕 成29年度 北区立西が丘小学校学力向上を図るための全体計

平成29年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	全ての観点で目標値を5～10ポイント程度上回り、区の平均と比較して「話す・聞く」以外の4観点は上回っている。「話す・聞く」は区の平均を下回っているが、ほぼ同程度である。基礎・活用では、基礎は目標値を9ポイント、区の平均を3ポイント上回っているが、活用については目標値上回っているが、区の平均を若干下回った。基礎的なことを活用して、自分の考えを整理したり、表現したりすることに課題がある。
社会	全ての観点で目標値と区の平均を上回るか、同程度であった。観点別にみると、「資料」「知識・理解」に課題が見られた。基礎・活用では、活用は目標値・区の平均とも上回ったが、基礎に課題が見られる。用語の正しい理解と定着、資料の活用した読み取りに課題がある。
算数	全学年で、目標値・区の平均を上回っている。観点別に見ると、「思考・判断」で区の平均を下回った学年はあるが、その差は0.5ポイント以内である。また、基礎・活用では、目標値・区の平均を上回るか、同程度であるが、活用で区の平均を下回る学年があるが、その差は1ポイント以内である。問題文を的確に読み取り、考えることに課題が見られる。
理科	4・5年生は目標値・区の平均を上回っている。観点別に見ると、4・5年生は目標値・区の平均を上回っている。6年生では目標値・区の平均を下回っているが、その差は3ポイント程度である。基礎・活用でみると、基礎は目標値・区の平均を上回るか同程度であるが、活用に課題が見られる。実験における条件整備や予想と結果の比較などを通して、日常生活などで生かせるようにすることに課題がある。

本校の教育目標

- やさしく
進んで協力し、明朗で心温かく、豊かな感性の育成
- かしこく
基礎・基本を身に付け、深く考える子の育成
- たくましく
何事にもくじけない気力と体力の育成

本校が児童に育成したい力

- ・基礎的な技能をしっかり身に付け、日常生活に活用できる力を育成する。
- ・主体的な学習や体験的な活動を通して、児童が感じたことを言語で表現したり知識を活用したりしながら、柔軟な思考力や豊かな想像力・表現力を育成する。
- ・学びを深めるための、対話力を育成する。

学力向上にかかわる経営方針

- ・児童の関心・意欲を高め、分かる授業の実践とPDCAによる、児童の側に立った授業の展開
- ・児童一人一人の個性や能力に応じた指導の工夫と授業改善を行う。
- ・少人数指導等を活用した個に応じた指導の充実
- ・言語力・対話力の育成
- ・体験活動と多彩な学習活動の工夫

校内における学力向上推進体制

学力向上推進委員会(校長・副校長・主幹教諭・研究推進委員長)
 少人数指導委員会(算数少人数担当者・各学年1名)
 研究推進委員会(校長・低・中・高学年・専科・日本語教室より各1名・教務)

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活や体験に結びついた実感のもてる学びの展開。 ・児童の[なぜ]を生かした課題解決型学習の充実。 ・児童の対話による、学びの深化を促す。 ・少人数指導などによる、個に応じた指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育プログラムを活用し、系統性のある授業計画の作成。 ・授業時数の十分な確保。 ・児童の実態に基づいて計画、実践し、反省評価を通して改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を中心とした校内研究、校内研修の実施。 ・日常的に互いの授業を参観し、OJT研修を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間毎や単元毎の振り返りを綿密に行う。それにより、指導法を改善するとともに、児童一人一人の課題を把握し個に応じた指導に生かす。 ・小中一貫カリキュラムを活用した、適正な評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10回の土曜授業を学校公開とし、家庭や地域の学校教育への理解を高める。 ・地域の人材を生かし、学習活動を多彩なものとする。 ・学校評価におけるアンケートに対して、改善策などを保護者に知らせる。